

令和7年度労災疾病臨床研究事業費補助金研究

外傷性せき髄損傷に併発した疾病等の取扱いに関する研究

研究代表者 松嶋康之（産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座 准教授）
研究分担者 佐伯 寛（産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座 教授）
研究分担者 伊藤英明（産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座 講師）
研究分担者 蜂須賀明子（産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座 講師）
研究分担者 松垣竜太郎（産業医科大学産業生態科学研究所作業関連疾患予防学 助教）
研究分担者 谷 直道（産業医科大学産業生態科学研究所人間工学研究室 講師）
研究分担者 古澤一成（吉備高原医療リハビリテーションセンター 病院長）
研究分担者 高岡 徹（横浜市総合リハビリテーションセンター センター長）
研究分担者 林 哲生（福島県立医科大学医学部リハビリテーション医学講座 教授）

研究結果の概要：

外傷性せき髄損傷に併発した疾病の取り扱いについては、平成5年厚労省策定の通達において、労働災害補償の対象疾病等について一定の見解が示されている。しかし、上記通達策定から約30年を経過し、その間、外傷性せき髄損傷に関する医学的研究や治療技術、医療器具などの大きな進展がみられ、その医療を取り巻く環境は大きく変化しており、上記の労災補償の通達内容との齟齬が認められるようになってきた。そのため、外傷性せき髄損傷に併発した疾病について、最新の医学的知見に基づいて外傷性せき髄損傷との因果関係を確認、整理する必要がある。本研究では、外傷性せき髄損傷に併発した疾病等について、医学的な観点からその因果関係を確認整理するとともに、アフターケアを含む対応に関して適切な方法確立を目的で、文献調査（エビデンス収集・分析）、医療機関における実態調査、患者・労働者を対象とする実態調査、事業場における実態調査、エキスパートパネル、情報公開を行う。

3年間の研究の1年目として令和7年度は、以下の研究を行った。

1. 文献調査（エビデンス収集・分析）【文献調査】
2. 医療機関における実態調査【医療機関調査】
3. 患者、労働者を対象とする実態調査【患者・労働者調査】
4. 事業場における実態調査【事業場調査】

【文献調査】

外傷性せき髄損傷に合併する疾患等について、医学的文献（英語、日本語）検索を

行うとともに、関連情報を収集した。一次スクリーニング、二次スクリーニングを行い、英文 244 件、和文 150 件を採択し、採択した文献に対して文献レビューを行った。平成 5 年厚労省策定の通達において、慢性期の併発疾病とされている「A. せき髄損傷と医学的な因果関係が認められるもの（褥瘡など）」の 25 種類の各疾病とそれ以外の記載が多かった疾病について文献から得られた情報を整理した。25 種類の疾病はいずれも脊髄損傷の慢性期の併発疾病として適切であると考えられた。慢性期の併発疾病「A」に該当するものとして、従来の①～⑤に加え、新たに「②⑥骨粗鬆症」、「②⑦排便障害」、「②⑧性機能障害」、「②⑨睡眠時無呼吸症候群」が、せき髄損傷と医学的な因果関係が認められることが示唆された。次年度、詳細に分析を行い、その結果からアフターケアへの新たな知見を提案する。

【医療機関調査】

文献調査結果を参考に、研究班で実態調査の方法と内容について検討した。代表一括審査として大学の倫理委員会受審に向けて申請の準備を行った。

【患者・労働者調査】

文献調査をもとに、研究班で具体的な調査方法を検討した。代表一括審査として大学の倫理委員会受審に向けて申請の準備を行った。車椅子クッションの除圧に関する調査を行い、クッション選択の参考となる座圧分布測定結果を得た。

【事業場調査】

文献調査をもとに、研究班で具体的な調査方法を検討した。代表一括審査として大学の倫理委員会受審に向けて申請の準備を行った。

外傷性せき髄損傷に併発した疾病等について、医学的な観点からその因果関係を確認整理するとともに、アフターケアを含む対応に関して適切な方法を確立する目的で、文献調査を実施した。次年度詳細に分析を行う。また、文献調査の結果をもとに医療機関調査、患者・労働者調査、事業場調査を進め、その結果からアフターケアへの新たな知見を提案する予定である。